

認定看護師シタター

認定看護師室：2016年10月発行 vol.37



PS (全身状態の評価スケール) について

PS (performance status)とは、患者さんが日常生活などをどの程度できるかという全身状態の評価スケールです。主に、がん患者の全身状態の評価として用います。

当院の診療の場面においても、医師が療養中の経過の把握や、治療（化学療法など）施行のための評価で使用しています。治療方針の検討や予後予測などにも繋がる重要なスケールであり、今回は皆で共通認識ができるためにPSについてお知らせしたいと思います。

スコア	定義
0	全く問題なく活動できる。発病前と同じ日常生活が制限なく行える
1	肉体的に激しい活動は制限されるが、歩行可能で、軽作業や座っての作業は行うことができる 例) 軽い家事、事務作業
2	歩行可能で自分の身の回りのことはすべて可能だが作業はできない 日中の50%以上はベッド外で過ごす
3	限られた自分の身の回りのことしかできない 日中の50%以上をベッドか椅子で過ごす
4	全く動けない。自分の身の回りのことは全くできない。完全にベッドか椅子で過ごす

スコアが高いほど全身状態が悪い

日本臨床腫瘍研究グループ (<http://www.jcog.jp/>)より引用

ポイント：①活動状況を聞く ②PS1～3を鑑別する

- ①「ご自宅ではお手洗いやお風呂、着替えなど、お手伝いなしで自分でできますか？」というように、具体的に問いかけをします。
- ②患者さんの心理に配慮しながら質問をする。
PS『0』と『4』は判断に迷うことは少ないですが、『1～3』は日常生活や環境により判断が難しい場合があります。また、**患者さんの状態は日々変化するため、PSも変化します**→PSの変化を“病気の進行”や“治療の影響”があるのかといったアセスメントに繋げることは重要です。患者さんは徐々に自分ができることを認めたくない思いや、人に迷惑をかけたくないなど実際には歩行が厳しい状態でも「自分でトイレまで歩けます」と言うこともあります。
→**気持ちに配慮しながら、日常の具体的な場面**を聞くことが重要です。 担当：緩和ケア認定看護師 上野ゆか

心臓いきいきキャラバン研修会のお知らせ

テーマ：心臓リハビリについて(仮)
日時：平成28年12月予定
場所：中国労災病院 8階 多目的ホール
対象者：医療従事者 参加費：無料
※詳細は後日、お知らせします。

“心臓リハビリ”ってご存知ですか？
「心臓が悪い人が運動なんて」と思われるかもしれませんが。目からうろこな話題がいっぱいあります。皆様のご参加をお待ちしております。